

平成26年度事業報告書

自 平成26年4月 1日
至 平成27年3月31日

公益社団法人 東洋療法学校協会

事業の概要

本年度は、24年4月から公益社団法人に移行して3年目となるが、当協会では、あん摩・マッサージ・指圧、はり、きゆうに関する教育の調査研究及び教材等の開発、学術大会の開催、教員の研修等を行うことにより、あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゆう師の学校（あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゆう師等に関する法律（昭和22年法律第217号）第2条第1項の規定に基づく学校又は養成施設をいう）の教育の振興と、国民の保健衛生の向上に寄与するために、定款に定める事業の推進と継続的發展を図り、あはきに関する普及啓発と安全性・技能向上により一層努めた。

1. 公益目的事業

1) 学術大会の実施と学会誌の発行事業

学術大会の開催と学会誌の発行を通じて、あはき師の学校教育の振興を図り、国民の保健衛生の向上に寄与した。

(1) 「第36回学術大会」

開催日：平成26年10月22日（水）

開催場所：神奈川県民ホール

大会テーマ：「めざせ！ 未病治」

参加校：34校

参加者数：1,934名

主管校：湘南医療福祉専門学校

特別講演：石井 直方（東京大学教養学部教授）

「健康長寿と筋肉の科学的関係：体にやさしい筋肉トレーニングのすすめ」

(2) 研究発表論文を集約した学会誌（第38号）を3,800部発行し、会員校・関係団体に販売と配布を行った。

2) 研修会事業

研修会を開催することにより、あはき師の学校教育の振興を図り、国民の保健衛生の向上に寄与した。

(1) 教員研修会の開催を通じて、教員により広い視点からの教育方法やあはきに関する知識を習得させ、資質の向上を図ることが出来た。

「第37回教員研修会」

開催日：平成26年8月6日（水）～8月7日（木）

開催場所：メルパルク長野

大会テーマ：「教える・育てる」を考える

参加校：45校（内非会員校2校）

参加者数：239名（内非会員校3名）

主管校：信州医療福祉専門学校

特別講演：伏木 久始（信州大学教育学系教授）「学ぶことと教えること」

市民公開講座：鎌田 實(諏訪中央病院名誉院長)

「頑張らない」けど「あきらめない」～命を支えるということ

(2) 教員の試験問題作成能力や評価に関する能力向上を図るための第2回勉強会を、外部から講師を招聘して実施した。

「第2回東洋療法統一模擬試験勉強会」

開催日：平成26年4月26日(土) 13:00～16:55

開催場所：呉竹鍼灸柔整専門学校

講義：奈良 信雄(東京医科歯科大学教授)「良い試験問題の作り方と評価」

参加者数：54名

(3) 日本理療科教員連盟と共同で教員の質向上を図る目的での「日本鍼灸手技療法教育研究会」の運営方法については、今後、両団体で話し合っ方向性を決めることとした。

3) アンケートによる調査研究事業

平成26年度の入学生を対象に、第12回「入学者の構成に関するアンケート調査」を実施し、集計内容を参加校に配布と同時に協会ホームページに掲載を行った。アンケートについては、公益事業であることから非会員校にも参加を呼び掛けた結果、下記のとおり協力を得られ調査内容に厚みを増すことが出来た。

「入学者の構成に関するアンケート調査」

調査月日：平成26年5月1日現在

参加校：60校(内非会員校15校)

対象者：26年度入学生

参加者数：あま指課程 247名

鍼灸課程 1,727名

あはき課程 969名

4) 実技評価者の派遣事業

「はりきゅう実技評価委員会」に登録した実技評価者が、実技評価審査事業に参加を希望した学校に赴き、「実施要領」に基づき鍼灸実技教育の到達レベルを客観的かつ統一的に評価試験を実施し、実技の質の向上に努めた。

また、平成25年度から実技評価に参加した学校・学生に対し、モチベーションを高めるために評価委員会から認定証を発行した。

「はりきゅう実技評価審査」

参加校：26校(詳細は、会議の開催及び運営状況に掲載)

評価を受けた学生数：1,689名

派遣評価委員数：167名

5) 助成事業

この事業は、当協会の定款の目的に合致する他団体が実施する事業への助成を通じて、あ

摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の学校の教育の振興を図り、国民の保健衛生の向上に寄与することを目的とするものである。

(1) 学術大会研究発表校に対する助成 1校 @5万円×30校

(2) 助成団体 「国民のための鍼灸医療推進機構」 助成金額 100万円

6) 教材の調査研究事業

新しい製品や教材、書籍が発売された際に、当該製品が学校協会から見て教材、書籍として良品であり、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の養成学校において使用することが適切であるかを検討している事業であるが、平成26年度は出版社等から書籍等の推薦依頼がなかった。

2. 収益事業等

1) 東洋療法に関する教科書等の作成及び改訂事業

(1) 改訂事業

(7) 全面改訂（平成27年4月発刊）

「東洋医学概論」（東洋医学系教科書委員会開催回数 2回）

「スポーツ東洋療法ハンドブック」の改訂に向けて、編集・執筆者を理事会で話し合い、平成27年度から委員会を立ち上げ、東京オリンピック前の発刊を目指す。

(4) 部分改訂（27年4月発刊）

「リハビリテーション医学」

2) 模擬試験事業

あはき師国家試験のための模擬試験を実施することにより、良質な試験問題作成や勉強会等を通じて教員の資質向上、学生のあはき師国家試験対策を図ることが可能となるため、平成24年度のトライアルに始まり、第2回目の模擬試験事業を実施した。非会員校にも参加を呼び掛け下記の事業内容となった。

「第2回模擬試験」

・試験実施日 平成26年11月9日（日）～24日（月）

・参加校 56校（内非会員校 19校）

・受験者数 2,554名（内非会員校 461名）

3) 会員相互扶助

(1) 研修会事業

会員校の健全な運営に資するため、代表者・教職員等に対し、専門学校の現状や法律関係など学校運営上必要とする研修会を開催した。

・法制部（出席者数37名）

開催日：平成26年度11月20日（木） 14:00～16:00

開催場所：浜松町東京会館ゴールドルーム（世界貿易センタービル39階）

- 研修内容： 1. 養成施設等厚生労働省の施策、状況等（講師 坂本 歩会長外）
2. 専門学校制度に関する文部科学省の動向（講師 関口 正雄理事）
3. 携帯用本人確認証について

(2) 会報事業

当協会の運営・活動状況を、会員校に情報提供するための会報を年4回発行し、各会員校及び監督官庁並びに関係諸団体等に配布を行った。

- ・会報 第99号～102号を発行

(3) 表彰事業

(7) 各会員校の特別に優秀な卒業生に対し、その努力を称えるための「盾」を当協会会長から授与した。

- ・優秀卒業生数 43名

(4) 学術大会での研究発表者に対し、当協会会長から「表彰状」を授与した。

- ・学術大会表彰者数 230名（30校）

4. その他

1) 厚生労働省医政局医事課に対し、あはき師養成施設指導要領の見直し（必要単位数に最低授業時間数を併記）、校外における実習等の認可、講義・実習等への教員資格が無くとも、高い専門性を持つ有識者の登用を認めて頂きたいとの要請を、正副会長等が2回にわたって行った。

2) 平成27年2月実施の第23回あはき師国家試験問題等について、各会員校から意見を求め、国家試験検討委員会において協議取りまとめを行い、「第23回あはき師国家試験への意見」として、(公財)東洋療法研修試験財団理事長に提出した。

3) 各会員校とのネットワークの強化、各会員校の学生募集への寄与、あはきの普及啓発のため、ホームページの充実を図り広く一般に情報提供を行った。

学校協会のホームページの充実を図るための一環として、会員校から「東洋雑学事典Q&A」の提出を頂き、小委員会での検討後にホームページに「東洋雑学事典Q&A」として掲載を行っている。

4) 広報活動の一環として「会員校要覧」及び「会員校学生募集要項」等の作成、リーフレットの更新を図って会員校のほか行政機関、業界団体並びに一般関係者に対し情報提供の資料として活用した。

5) 事業推進のため、関係行政機関との連携を密にし、(公財)東洋療法研修試験財団、あはき等法推進協議会、(公社)全日本鍼灸学会、国民のための鍼灸医療推進機構、マッサージ等将来研究会等のほか教育団体及び関係団体との情報交換を密にし、相互協力・連携強化に務めた。